

三郷学で構想する まちづくりワークショップだより

第8号

平成22年
12月16日発行

- ◆〒341-8501 埼玉県三郷市花和田 648 番地 1
- ◆電話：048-930-7763 / FAX：048-953-1169
- ◆ホームページ：http://www.city.misato.lg.jp/
- ◆三郷市 企画総務部 企画調整課

「第4回三郷学で構想するまちづくりワークショップ」を開催！

〈政策形成ハンドブック〉

〈1班～3班が三郷学カリキュラムと三郷学検定を担当。4班～6班は政策形成ハンドブックを担当〉

… 前号から続く。(土山准教授のコメント)

4班は、あの色々なやり方、たとえばビジュアルでマンガですね、なんか外国の人向け。実は1班さんのところでも、国際化に関するお話がでていましたけれども、そういういろんな人が解りやすい様に、ビジュアル、マンガ。文章短く。それからつぶちゃんかいちちゃんのキャラクターを使った問題解決ブックという、政策形成という言葉をもう少し解りやすく噛み砕いていきましょうという事を意識されていたという風に思います。特に合意形成とかなんですけれども、それをこうやったらいんだよねと書かれておられたのは、何回かワークショップをされていた事の直接的な成果で、逆にそういう意見を出し合いながらまちの姿を考えていくって事が問題解決や政策形成に重要なんだよという事をおっしゃっていたんだなという風に思いました。



〈コメントする土山准教授〉

5班では、やや政策形成ハンドブックの方がちょっとハードル高いのかなと。で具体的にどういうものかというの、なかなか見えてこないよねというところで、各班さんそれぞれ手探りで、手探りなんですけれども、皆さんでこうゆうハンドブックが必要なんだ。こうゆう課題を解決する事が、こうゆう目的を達成する事が必要なんだという事をそれぞれの班のアプローチでみていただいたんじゃないかと思います。まさに本当に政策形成って日常ではわからない。では日常の課題、生きていく事、まさにそれを支援するブックというのがすごくいいなと思ったんです。それによって実は「田園都市みさと」が好きになり、そこで楽しく暮らせるという、5班さんなりの

政策を形成していくという事がですね今日の議論のところで実践されたのではないかなと思います。で沢山のアイデアを出していただきまして、その中から対象、配付場所、表現方法という風に絞っていただきました。

印象的だったのはどこで配ってあげるか、やっぱり人に届けようとかそれから解りやすく、カタカナや英語は避けるという事とですね。すぐわかる概要版をつけるというのもひとつ特色のあることだな。全部みるんじゃなくてそれを見ればわかるっていう様な、又それぞれのマップでぱっと見てわかる。それによって、自分の謎が解けて、生きていくことが楽になるというより楽しくなっていくというのを念頭において議論されていたのがとても印象的でした。

6班は、話を聞いていて印象的に思っていたのが、政策形成と三郷学、実は繋がっているんだなというのが発表のところで、今日わかったんです。三郷学との繋がり、お話を聞いていてですね、なんとなく三郷学の事をお話しされている様な部分もありつつ、でもそれはやっぱり地域の事を知っていくという事が政策形成の第一歩なんだという事をお話しされていたのかな。でA3の大ききぐらいのサイズで、広報みさとに折り込み込んでいって。それをぱっとみてもらって学校でも貼ってもらってという様なアイデアだとか。そうなるとう当然ビジュアルでイラストで、絵やマンガや解りやすい文章で解説されているんだと思うんですけど。そういう配布のところでハンドブックといいながら、実はぱっとこういう風にみせていく形なんだよとお話しされていたのが印象的でした。



〈異なる意見も和やかに議論するワークショップの様子〉

それぞれのグループで非常に積極的にお話をされていていいですね。ワークショップ自体は3回目ですね。そこでの議論の積み重ねが当然ベースとしてあると思います。本当はもっともっというんな事話せたんだというのがあると思うんですが、こういうやり方で初めてお会いになった皆さん方で、何かゴールに近い、あるいはゴールにたどりついていないですけれどもそのプロセスを皆で作っていくという話し合いがとてもいい形でできていたと思います。発表を伺いながら、すごくいい、ああなるほどな、という発見が私もありましたし皆さんもあつたんじゃないのかなと思います。

という事で私のコメントに代えさせていただきます。今日は皆さん本当にお疲れ様でした。



〈各班でまとめたポストイットの貼られた模造紙〉